

男子 S A 級 運用方法 (2013 年度適用修正版)

S A 級統合に向けて

⇒ S A 級の特徴

< 2013 年度 >

① 予選を A 級とし、8 ブロックのトーナメントで行なう。

本戦を S 級とし、予選勝者 8 名と前年度 S 級残留と A 級から S 級昇格の 24 名による 32 ドローで行なう。

② ラッキールーザー (L.L.) の採用

③ S 級ベスト 8 を次年度 S 級ダイレクト・インとする

※ A 級を初日に、S 級を 2 日目・3 日目に行なう。

S 級 DA = 前年度の S 級残留者と A 級から S 級昇格者の予選 (A 級) 免除選手。

Q = 本年度予選 (A 級) 各ブロック通過者

2013 年度

[1] S 級ダイレクト・インの選定および S 級トーナメント・ドロー、A 級ブロック数

⇒ S 級トーナメントは S 級 DA と A 級予選通過者 Q をあわせて 32 名とする。

エントリーの段階で DA 24 名に不足が生じた場合は A 級予選ブロックを不足分追加する。

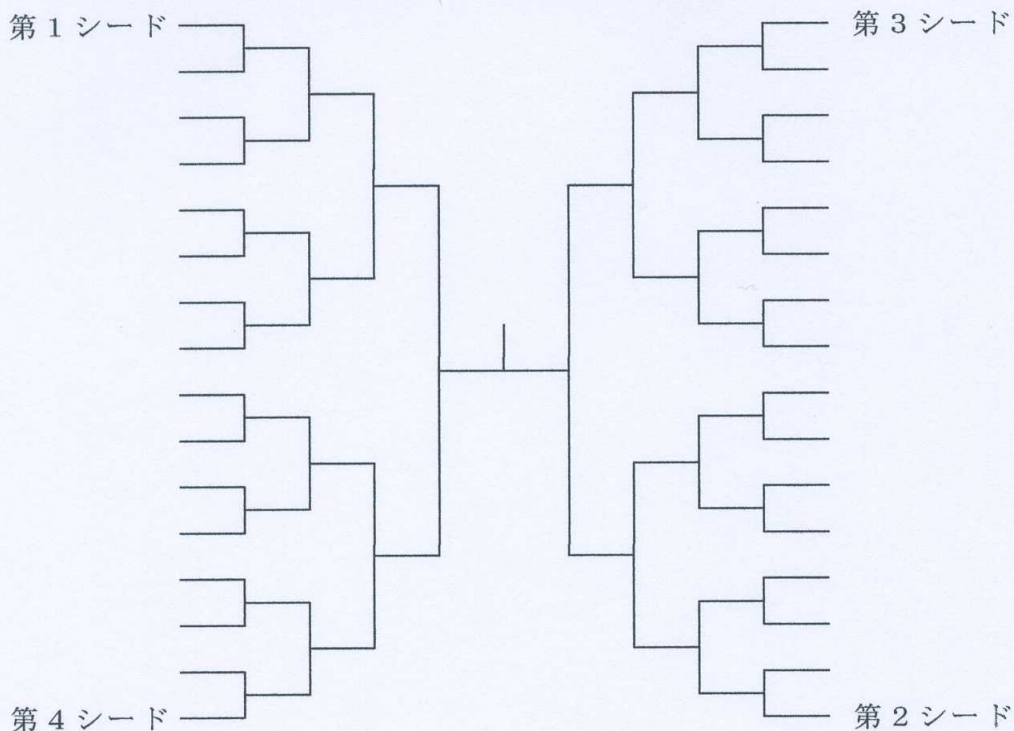
【2013 年度】エントリーの段階で DA の申込みが 22 名。

$32 (\text{ドロー}) - 22 (\text{DA}) = 10 (\text{Q})$ となる。

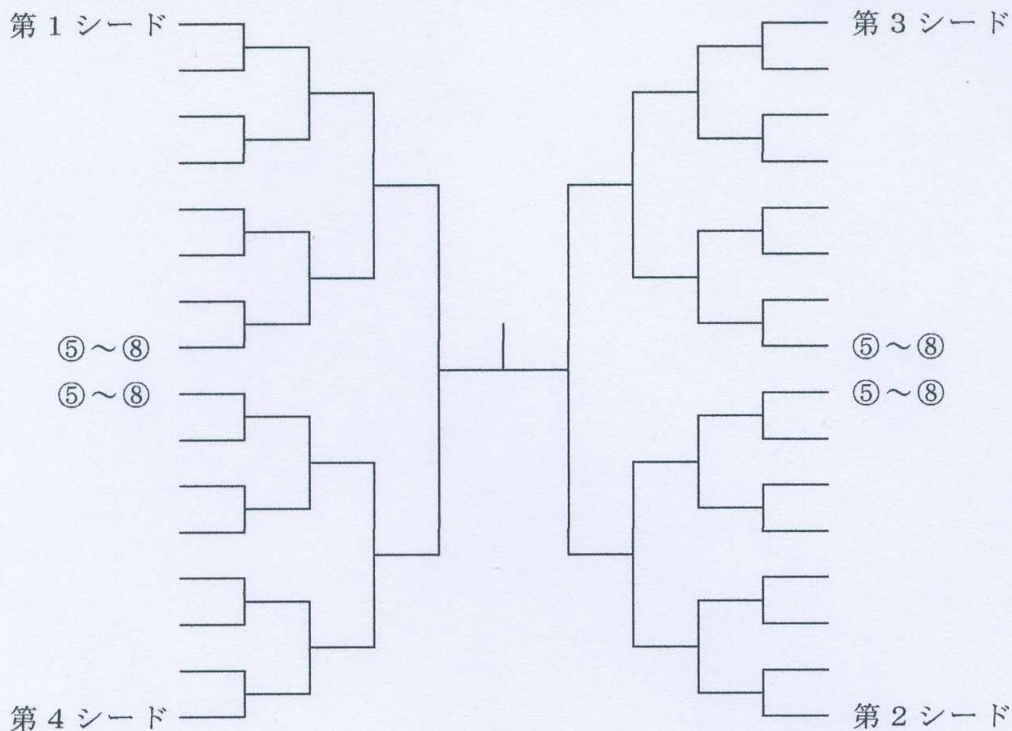
よって予選ブロック (A 級) は 10 ブロックとする。

① S 級トーナメント・ドローでまずシードを確定する

1. 前年度の結果より第 1 ~ 第 4 シードを確定し、配置する。



2. 前年度の結果より第5～第8シードをS級当日抽選により配置する



② 2013年度のDAとQの配置は以下の通りとし、DA及びQそれぞれに抽選を行いドローを確定させる。



⇒上記のS級トーナメントを行い、ベスト8を次年度のS級DAとする。

〔2〕 S級当日に W.O.が発生し、3 2 ドローに達しない場合

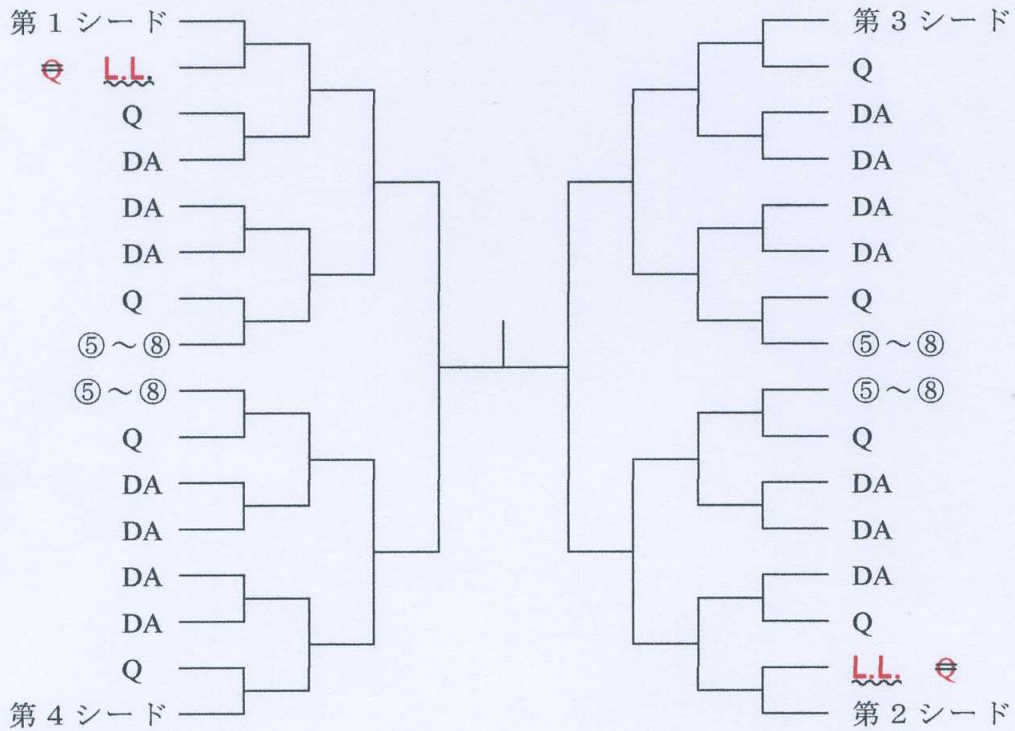
⇒本戦当日に W.O.が発生し、3 2 ドローに達しない場合にはラッキールーザー (L.L.) を採用する。

A級ファイナリストにS級当日にサイン・インしていただき、本戦当日に W.O.が発生し3 2 ドローに満たさない場合、サイン・インした選手から抽選にて L.L.を選出する。(※当日W.O.が起こりえるかは不確定なので、サイン・インするかどうかは選手の自由意志とする。)

ただし L.L.は第1シード対戦枠から順にシード対戦枠に配置する。

例) Qが2名 W.O.の場合2名が L.L.となり第1・第2シード対戦枠に配置される。

L.L.のサイン・インに5名来た場合、2名が抽選により選出。



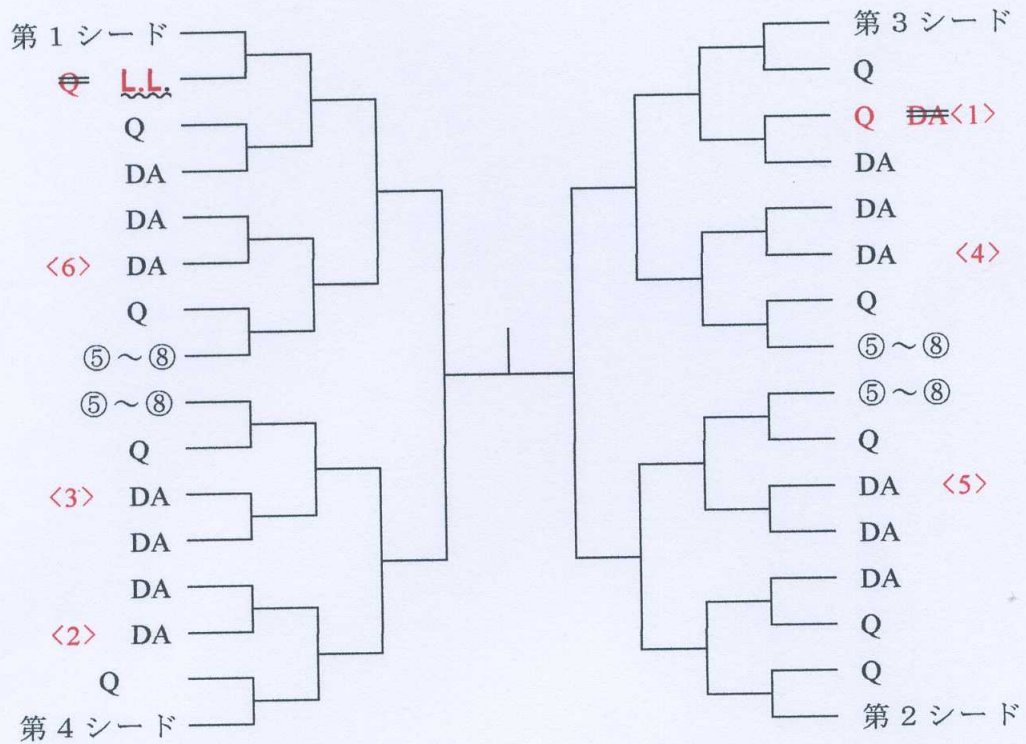
[3] DA が W.O.した場合。

DA が W.O.した人数に合わせて、<>内の数字順に Q は移動となる。

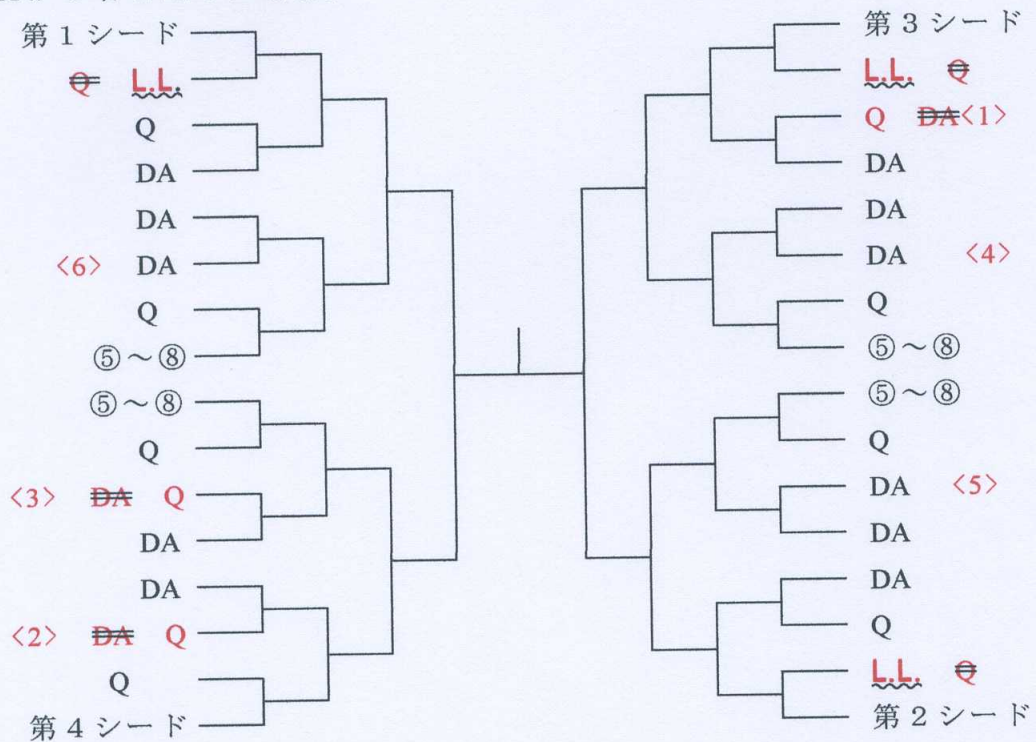
例 1) DA が 1名 W.O.した場合。

1名が LL.となり第 1 シード対戦枠に配置されるのは [2] と同様。

Q は DA<1>の位置に移動となる。



例 1) DA が 3名 W.O.した場合。



[4] DA および Q が W.O.した場合。

例) DA が 2 名、Q が 2 名 W.O.した場合。



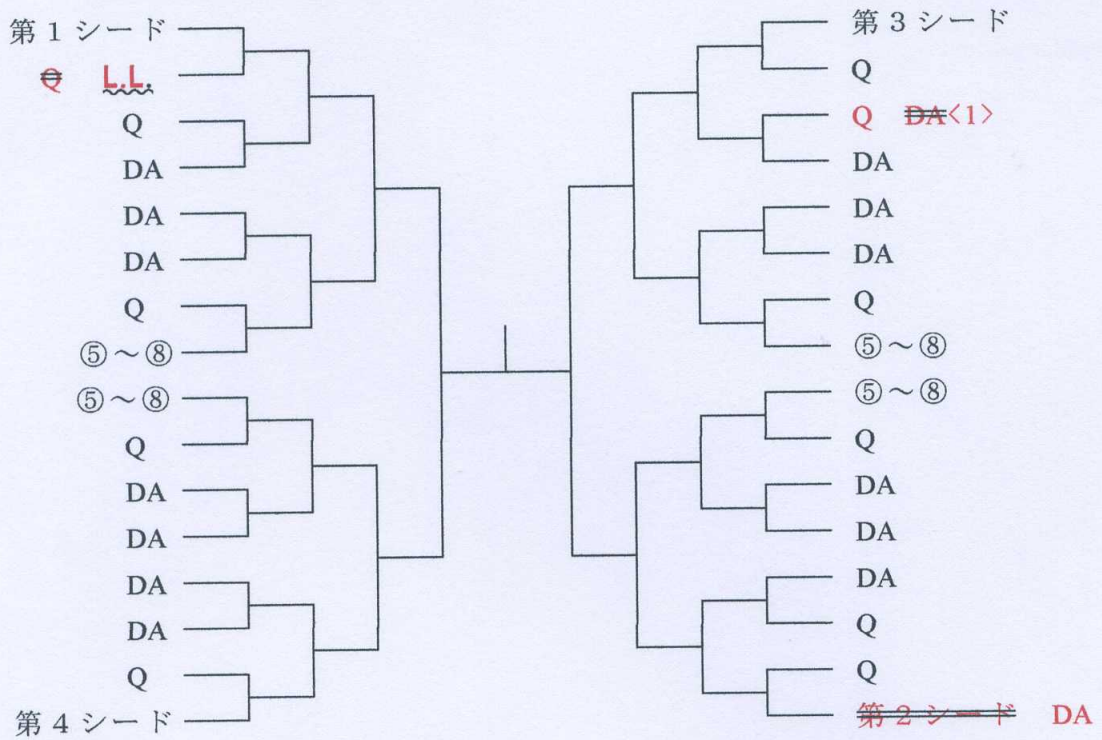
[5] S級当日に W.O.が発生し、3 2 ドローに達せず尚かつ LL.が不足していた場合
 ⇒ LL.も不足し 3 2 ドローに満たない場合、第 1 シード対戦枠からシード順に BYE と
 する。

例) DA 1 名・Q が 1 名 W.O.の場合 2 名が LL.となるが LL.のサイン・インに
 1 名しか来なかった。S 級に 1 名不足発生。



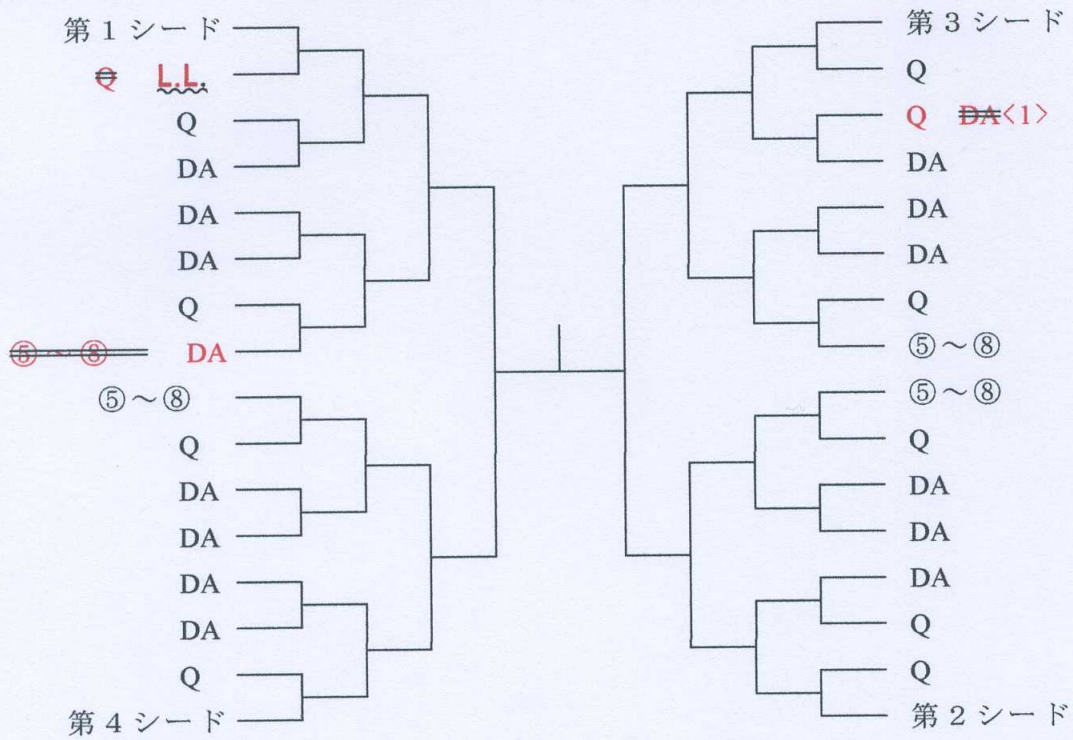
〔6〕 S級当日に第1～4シードのいずれかが W.O.となった場合
 ⇒シードの位置には DA が抽選によりはいる。

例) 第2シードが W.O.となり LLが1名発生。



〔5〕 S級当日に第5～8シードのいずれかが W.O.となった場合
 ⇒第1シードの対抗枠の⑤～⑧の位置には DA が抽選によりはいる。

例) 第⑤～⑧シードの1名が W.O.となり LLが1名発生。



統合2年目以降

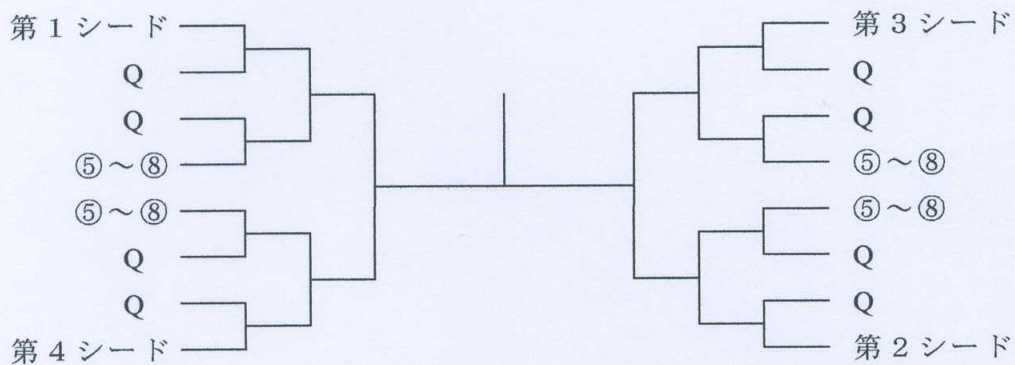
<2014年度>

2013年との相違点

① S級は前年度S級ベスト8の8名と、当年度A級勝者8名による16ドローで行なう。

② S級1・2回戦は8ゲームプロセットで行なう。

※その他の運用については2013年度と同様に行なう。



以上